

古川兵吾井手

文化10年(西暦1813年)

菊池川から分水して造られた平野井手は、古川地区に取入口があることから、古川井手と呼ばれています。大平地区の飲用水のほか、開墾した水田16・4畝にも使われました。

大平地区の急速な潤いをみた戸豊水地区でも、農業用水確保のため井手の延長を計画。しかし菊池川の水だけでは不足するため、上津江村の川原川から途中6力所の隧道を要する兵藤井手を掘り、鉾甲川を経て古川井手を増水し、戸豊水地区まで井手を延ばすことができました。兵藤から戸豊水までの井手であることから頭文字を生かして「古川兵吾井手」と呼ばれ、現在でも多くの水田を潤しています。



認定番号第ふるさとH23-11号 推薦者 古川兵吾井手管理委員会

水分神の碑と 兵藤古川井手由来碑

水分神の碑は、古川兵吾井手の完成を祝って、戸豊水の村を眼下に見渡す場所に、兵藤・保慶両井手の石と第6隧道付近の石、古川井戸口の石をご神体として建立され、8月8日を祭日と定められました。俗に井神明と言ひ、今では地名となっております。

由来碑には、古川兵吾井手開設の経緯、経過を詳細に記してあり、この井手の維持管理に務め、今ある恩恵を忘れず、後世に伝えて行くよう記されています。両碑とも今もなお流域の水田を潤し、生活用水、非常用水として利用されている古川兵吾井手の歴史を語る地域の宝です。



認定番号第ふるさとH23-12号 推薦者 戸豊水区

人権同和教育シリーズ ⑧ 地域人権教育指導員 中原英

「身分制度の始まり」

私の生まれた「下長田」の歴史を調べる機会を頂き、昔の下長田を調べてみました。すると、面白いことに気づきました。私の生まれた下長田は、江戸時代から明治7年まで「広瀬古閑」と言われていたこと、この広瀬古閑に中原宇座衛門という人がいて、下長田のお宮の創建に尽力したこと、この人の3代前の中原治治までは、小国に住んでいたが、肥後国衆一揆に参加したため、郷土としての刀をとりあげられ、広瀬に転居したこと。歴史にうかつた私は、教師になって社会科で「検地と刀狩」について教えてきましたが、これが身分や差別と深く関わっていることに気づきませんでした。最近になって、この「検地と刀狩」が身分制度と深く関わっていること、しかも、検地と刀狩が私の先祖が関わっていた「肥後国衆一揆」がきっかけとなって実施されたことを知りました。歴史は身近なところから、手繰り寄せていくことが大事だと思います。

秀吉は、「肥後国衆一揆」が治まると直ぐに1588(天正16)年に「刀狩令」を出し、農民から武器をとりあげ、土一揆を防止するとともに、村にいた武士(郷土)を城下の都市に集め、武士と百姓の区別を明らかにしました。これを「兵農分離」といいます。これにより中世の郷土の力はなくなりました。

このごろ、江戸時代の身分制度の始まりについて新たな見解が示されています。最近の小学校の教科書では、「土農工商が江戸時代の初めにつくられた」という記述はなくなり、「武士・百姓・町人の身分が定められた」と変わっています。また、その時期については、江戸時代の初めでなく、1588(天正16)年に豊臣秀吉によって「身分統制令」が出され、「武士・百姓・町人の身分が定められた」となっています。これによって、古代以来の荘園制は完全に終わりをづけ、近世領主が村を単位に土地と農民を直接支配する、新しい身分制度の基礎が整いました。この「検地・刀狩・身分統制令」は、ひとセットで制度として身分を固定するものでした。

後の領主としてやってきた佐々木成政が、肥後の検地をしようとしたが、当時隈府城の城主であった「隈部親永」は、豊臣秀吉から領地は安堵されているとして検地に反対しました。それで佐々木成政は、隈府城を攻めました。検地に反対であった肥後の国衆たち52人は、立ち上がって佐々木成政に抵抗しました。国衆一揆は、半年続きましたが、秀吉の差し向けた援軍により鎮圧されました。これが「肥後の国衆一揆」ですが、この一揆に豊臣秀吉も大変苦慮し、一揆終息後、急いで「刀狩」をして、郷土や百姓から武器を取り上げて「武士・百姓・町人」の身分を定めました。この身分(その他の身分を含む)が江戸時代の終わりにまで制度として存在しました。最近「あんずの丘」に大きな銅像が立ちましたが、あの人が「隈部親永」です。一度見に行ってくださいと思います。そして、肥後の歴史をひも解いてみれば、案外近いところに身分制度の起りがあることに気づくでしょう。



隈部親永公銅像

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

女性のしごと展

期間 10月23日(火)~11月18日(日) 10人の女性作家の創作作品を展示販売いたします。女性ならではの作品をご覧ください。



夫婦の手紙・絵手紙展

期間 11月22日(休) ~平成25年1月20日(日) 口に出しては言えない日頃の感謝の思いを込めて。手紙をとおして自分の一番大切な人への想いを伝えます。



11月の開館時間 午前9時~午後6時

家庭料理大集合・食の文化祭

昔ながらの行事食や地域に伝わる伝統的な料理、おばあちゃんの味：子や孫の世代に受け継がれていますか？

菊池地域の食を見つめ直し、家庭料理にスポットを当てた美味しいイベントが「水源食の文化祭」。各地域の婦人部やグループなどが地域の味、伝統料理や創作料理を持ち寄る文化祭は今年で8回目。昨年は56種類の料理で会場は彩られました。展示・試食だけでなく、地域交流も行われる楽しいイベントです。地域の食を見つめ、次の世代に受け継ぐ食の文化祭に参加しませんか。

とき 11月25日(日) 午後1時~3時 ところ きくちふるさと水源交流館 参加料 1人500円 ※小学生以下は無料



昨年の文化祭では菊池地域の家庭料理56種類が大集合

韓国発見シリーズ ⑧ こんにちはは金です



「ご飯食べた？」と春窮期 「お食事はしましたか？」「ご飯は食べた？」最近流行りの韓国ドラマの中で、たびたび聞く韓国式あいさつの言葉だ。このような韓国式あいさつを不思議に思う日本の人が多いようだ。

外国語には多様なあいさつ言葉があるが、ご飯を食べたのかがあいさつになる国は珍しいと言います。これを理解するには、韓国の悲しい歴史の一面を知る必要があります。

昔から、韓国には春の端境期を表す「ポリッコゲ(麦嶺期)」という言葉がある。この時期は去年秋季に収穫した穀物が底をつき、食用の大麦や小麦はまだ熟していない5~6月、食糧事情が最も難しい時期を意味する。食料がなくなり、食べられるものが無い農家の食生活で一番困難な期間となり春窮期とも言われる。大抵の農家は秋に収穫した農作物の中から小作料、借金、利子、税金などさまざまな費用を差し引いた後、残った食糧で初夏の麦収穫の時まで耐えなければならなかった。それに加え昔から韓国は日照り、洪水、イナゴによる被害がひどかった。そ



菊池市役所 国際観光マネージャー 金 相廷さん

れで春先は草根や樹皮を食べたり、物乞いや借金をして食いつないだ。流民になってさすらい人もいた。

歴史記録を見ると、春窮期は高麗時代(西暦918~1392年)や朝鮮時代(西暦1392~1910年)のみならず、日帝時代(西暦1910年~1945年)を経て朝鮮戦争、そして1970年代初めまで続いた。それで、この言葉は韓国では一番惨めな期間の代名詞と認識されている。「二日一食が普通だった」という記録もあることから、韓国歴史の一面はひもじさの歴史と言いうことも否定できない。このような背景から「食事しましたか？」があいさつ言葉になった。

今、韓国は肥満を心配する国になったが、「ご飯食べた？」というあいさつには難しかった時代の韓国の悲しい歴史の一面が隠れている。私も子どもの時、田舎で暮らした経験があるが、小麦を採って来て、かまどの炊き口に入れて軽く炙って手で擦り、香ばしい小麦を食べた記憶がある。今となっては懐かしい、ノスタルジックな思い出である。

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

まちかど資料館企画展 大塚耕二・遺作展

期間 ~11月25日(日) 若き画家の精神の葛藤を満洲ハイル駐屯地で遺した軍隊日記の原文で垣間見、もう一人の大塚耕二をご紹介します。



田中栄一写真展 [20cm×25cmフィルム写真の世界]

期間 11月6日(火)~11月18日(日) フィルムの大きさが20cm×25cmあるカメラで撮影した世界の色々を展示します。

音女(おとめ)の世界絵画展 ~日本の風景と花~

期間 11月20日(火)~12月16日(日) 「常陸の国」茨城県鹿嶋市からの出展です。自然の風景と花を水彩画で表現。ご家族皆さままでぜひお越しください。

※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)